

平成 28 年 度

**「経営発達支援計画」事業実施報告書**

(事業の実績・評価・見直し結果)

**下野市商工会**

## 概要

本報告書は、経営発達支援計画に基づき、下野市商工会が平成28年度に実施した事業の実績、評価及び見直し結果等についてまとめたものである。

国に提出するほか、当商工会のホームページに掲載し、地域の小規模事業者が閲覧できるようにしている。

なお、評価及び見直しにあたっては、「下野市商工会経営発達支援計画検討委員会」を組織して、外部有識者等を活用し、公平かつ幅広い意見を取り入れて審議を行った。

## 下野市商工会経営発達支援計画検討委員会

### ■ 目的

経営発達支援計画の年度目標(P)に対する実績(D)の報告を受け、目標達成事業の効果、未達成事業の理由や原因について評価・検証(C)し、推進方法等の見直し(A)を審議する。審議結果を商工会の理事会等へ報告し、次年度以降の事業に反映させていく。PDCAサイクルを有効に回すことで、計画の実効性を高める。

### ■ 組織（委員名簿）

No.	役名	氏名	所属・役職等
1	委員長	矢口 季男	JBC診断士事務所 代表 中小企業診断士
2	副委員長	神戸 良和	下野市 産業振興部 商工観光課 課長補佐兼商工業・労働グループリーダー
3	委員	大谷 章喜	(株)足利銀行 南河内支店長
4	委員	平船 徳章	(株)栃木銀行 小金井支店長
5	委員	柴田 康浩	足利小山信用金庫 小金井支店長

### （オブザーバー）

No.	氏名	所属・役職等
1	猪瀬 正則	栃木県商工会連合会 顔張る企業応援課 課長

### （事務局）

No.	役名	氏名
1	事務局長	小菅 忠男
2	主査	稲葉 寿幸

### ■ 会議開催状況

日時：平成29年3月27日（月） 15:00～17:00

場所：下野市商工会（本所） 1F 会議室

## 1. 地域の経済動向調査に関すること【指針③】

経営発達支援事業の目標達成に向け、「地域の消費者及び小規模事業者の経済動向実態を把握すること」を目的に、各種調査を活用した地域の経済動向に関する情報の収集・整理・分析及び提供を行う。

「地域と事業者の現状と地域の課題の“見える化”」効果を図る。

### (1) 実施した事業内容

#### ① 地域経済動向調査

・管内事業者に対し、経営状況の分析や事業計画策定の方向性を決定するに有益な情報を提供することを目的に、5月に外部専門家に依頼して外部機関が実施する調査から地域の経済動向について情報収集、整理、分析を行った。調査内容は、産業別景況概要や下野市の人口推移等で、調査結果については、調査報告書にまとめ会報特別号として当商工会の会員に送付及びホームページで公表した。併せて、以下の調査（当商工会で調査、上部団体で集計）についても当商工会ホームページで公表した。

- ・平成27年度商工会員中期施策要望調査報告書
- ・地域生活者アンケート調査（全体結果）
- ・地域生活者アンケート調査（第5ブロック 商工会別集計）
- ・第146回景況調査（H27.10月～12月期）
- ・第147回景況調査（H28.1月～3月期）

[外部専門家：中小企業診断士 笹川 嘉洋 氏]

#### ② 当地域における飲食業の動向調査

・重点支援対象事業者（飲食業関連事業者）が経営状況の分析を行う際の指標となる情報を提供することを目的に、6月に飲食業関連事業者65者を対象として、全職員で巡回訪問によるアンケート調査を実施した。調査票の作成及び集計・分析については外部専門家に依頼し、「売上高の推移」「設備投資の動向」「経営課題」等の内容を調査した。調査結果については、当商工会ホームページで公表したほか、当該事業者へ提供した。

[外部専門家：中小企業診断士 笹川 嘉洋 氏]

### (2) 今年度の目標及び実績等

項 目	（☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目）	目標	実績	達成率
① 会報送付回数		1回	1回	100.0%
② ホームページ更新回数		4回	2回	50.0%
③ 調査回数（成果物数）	☆	8回	7回	87.5%

### (3) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

#### \*コメント

・経営状況分析セミナー及び重点支援対象事業者への専門家派遣の前に実施できたので、事業者を支援する際に調査結果を活用することができた。

・専門家に依頼することで、より専門的な分析ができたほか、効率化を図り商工会のマンパワー不足を解消できた。

・調査結果が漠然としているため、調査項目及び委託先の検討が必要と思われる。

#### 【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に適っているか？必要か？

妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？

有効性：成果は上がっているか？効果は？

効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

### (4) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性（5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる）	
○	拡 充 <input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実 <input type="checkbox"/> 新たな展開 <input type="checkbox"/> その他
○	一部改善 <input type="checkbox"/> 内容見直し <input checked="" type="checkbox"/> 実施方法見直し <input type="checkbox"/> その他
○	縮 小 <input type="checkbox"/> 事業の縮小 <input type="checkbox"/> 時限設定必要 <input type="checkbox"/> その他
○	廃止休止 <input type="checkbox"/> 妥当性なし <input type="checkbox"/> 当会以外で実施すべき <input type="checkbox"/> その他
○	現状維持 <input type="checkbox"/> 適切な事業執行 <input type="checkbox"/> 大幅な変更不要 <input type="checkbox"/> その他

\* 検討委員コメント

- ・目標値が過大ではないか、着実に実施できる目標設定が必要である。
- ・調査回数よりも、調査内容が重要である。小規模事業者にとって有意義なものか検証し、調査項目等の検討を行うことが必要である。

(5) PDCA評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判 定
B

- A : 目標を達成することができた。(100%以上)  
 B : 目標を概ね達成することができた。(80%~99%)  
 C : 目標を半分程度しか達成することができなかった。(30%~79%)  
 D : 目標を達成することができなかった。(30%未満)

(6) 次年度目標

項 目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	29年度	今年度比
① 会報送付回数	1 回	±0 回
② ホームページ更新回数	6 回	+2 回
③ 調査回数 (成果物数) ☆	10 回	+2 回

(7) 次年度目標の達成に向けた見直し (改善等)

- ・委託先を含めた調査内容の見直しが必要である。小規模事業者にとって有益な情報となるような調査項目を検討し、事業を実施する。
- ・委託する専門家から、分析プロセス等の指導を受け、臨機に応じて情報を追加分析できる体制を整える。

## 2. 経営状況の分析に関すること【指針①】

経営発達支援事業の目標達成に向け、上記1. 地域の経済動向調査を踏まえ、「個々の事業者の経営課題を抽出し、事業計画策定の方向性、必要となる需要動向情報の種類・開拓方法を見極めること」を目的に、巡回、窓口相談、各種セミナーの開催、専門家派遣事業等の活用により、販売する商品・サービス(技術)の内容、保有する技術・ノウハウ、従業員等の経営資源、財務、その他の経営状況の分析を行う。分析結果により抽出された課題については、その解決に向けた事業計画の策定支援へと繋げる。

小規模事業者に寄り添い、目線を合わせることで、「課題の深化と本質を見極める」効果を図る。

(1) 実施した事業内容

① 経営分析対象者の掘り起こし

- ・全職員による、小規模事業者への巡回訪問のほか、金融・経営・労務等の巡回・窓口相談、及び記帳継続指導等を通じて、経営分析が必要な小規模事業者の掘り起こしを行った。
- ・重点支援対象事業者については、専門家を派遣して戦略的に需要開拓支援まで行うため、業種・地域等を加味して14者選定した。

② 経営分析

【経営状況分析セミナーの開催】

- ・日時：[集団]7月14日(木)14:00~17:00 [個別]8月3日(水)・4日(木)
- ・講師：(株)ネオクラシック 代表取締役(中小企業診断士) 柴田 幸紀 氏
- ・受講者：[集団]15者 [個別]12者

セミナー終了後、職員がフォローアップを行い8者が経営状況分析書を作成した。

【専門的な経営状況の分析に係る専門家派遣】

- ・実施時期：8月~9月
- ・専門家：中小企業診断士 笹川 嘉洋 氏
- ・派遣先：重点支援対象事業者 14者

専門家の指導により14者全てが経営状況分析書を作成した。また、専門家派遣の際には、職員1名が随行し支援能力の向上が図れた。

【その他】マル経融資斡旋時及び小規模事業者持続化補助金申請の際に、経営状況の分析の支援を行い、15者が経営状況分析を行った。

(2) 今年度の目標及び実績等

項 目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	目標	実績	達成率
① 経営分析対象者掘り起こしに係る巡回訪問延べ回数	450 回	452 回	100.4%
② 経営分析に係る巡回訪問延べ回数	64 回	104 回	162.5%
③ 経営分析に係る講習会・セミナー受講者数	28 者	29 者	103.6%
④ 経営分析事業者数 ☆	32 者	37 者	115.6%

(3) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかと いうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

\*コメント

- ・ 専門家を効果的に活用することで、経営状況の分析に取り組む事業者数を確保できた。
- ・ 経営分析対象者の掘り起こしは、セミナー参加をメインに実施したが、経営状況分析の必要性を事業者理解されなかった。
- ・ セミナー受講者のうち7者が、経営状況分析に繋げることができなかった。職員のフォローアップ体制の強化が必要。
- ・ 分析実施者は、スムーズに事業計画書作成へと繋がった。

【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に合っているか？必要か？  
有効性：成果は上がっているか？効果は？

妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？  
効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

(4) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかと いうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性（5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる）

	拡 充	<input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実	<input type="checkbox"/> 新たな展開	<input type="checkbox"/> その他
○	一部改善	<input type="checkbox"/> 内容見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 実施方法見直し	<input type="checkbox"/> その他
	縮 小	<input type="checkbox"/> 事業の縮小	<input type="checkbox"/> 時限設定必要	<input type="checkbox"/> その他
	廃止休止	<input type="checkbox"/> 妥当性なし	<input type="checkbox"/> 当会以外で実施すべき	<input type="checkbox"/> その他
	現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他

\*検討委員コメント

- ・ 目標にとらわれて、実施件数偏重とならないように、分析内容の充実を図ること。
- ・ 経営分析対象者の掘り起こしが重要である。

(5) PDCA評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判 定

A

- A：目標を達成することができた。（100%以上）  
B：目標を概ね達成することができた。（80%～99%）  
C：目標を半分程度しか達成することができなかった。（30%～79%）  
D：目標を達成することができなかった。（30%未満）

(6) 次年度目標

項 目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	29年度	今年度比
① 経営分析対象者掘り起こしに係る巡回訪問延べ回数	495 回	+ 45 回
② 経営分析に係る巡回訪問延べ回数	72 回	+ 8 回
③ 経営分析に係る講習会・セミナー受講者数	32 者	+ 4 回
④ 経営分析事業者数 ☆	36 者	+ 4 回

(7) 次年度目標の達成に向けた見直し（改善等）

- ・ 経営分析対象者の掘り起こしのための巡回訪問を強化する。
- ・ 経営状況分析セミナーを開催し、支援事業者の資質向上を図り、効果的な経営状況の分析を行うと共に、セミナー受講者に対して、受講後の職員によるフォローアップ体制を強化し、着実な実施へと繋げる。
- ・ セミナーには職員も参加し、支援能力の向上を図ると共に、セミナー受講をされない事業者への支援に活用していく。

### 3. 事業計画策定支援に関すること【指針②】

経営発達支援事業の目標達成に向け、上記2. 経営状況の分析結果、及び下記5. 需要動向調査に基づき、「個々の事業者が経営課題を解決し、需要を見据えた事業計画を策定すること」を目的に、巡回や講習会等を通じて、計画策定の指導・助言を、栃木県、近隣の商工会等とも連携し行う。

また、創業・第二創業（経営革新）者には、目指す方向性を確認し、計画策定の指導・助言を行う。

小規模事業者に寄り添い、事業者に“気づき”を与えることで、「計画の実効性を高める」効果を図る。

#### (1) 実施した事業内容

##### ① 事業計画策定セミナーの開催

- ・日時：[集団] 8月24日（水）14:00～17:00 [個別] 9月14日（水）・15日（木）
  - ・講師：㈱ネオクラシック 代表取締役（中小企業診断士） 柴田 幸紀 氏
  - ・受講者：[集団] 15者 [個別] 9者
- セミナー終了後、職員がフォローアップを行い7者が事業計画書を作成した。

##### ② 戦略的な事業計画策定に係る専門家派遣

- ・実施時期：9月～10月
  - ・専門家：中小企業診断士 笹川 嘉洋 氏
  - ・派遣先：重点支援対象事業者 14者
- 専門家の指導により14者全てが事業計画書を作成した。また、専門家派遣の際には、職員1名が随行し支援能力の向上が図れた。

##### ③ 経営計画書作成支援セミナーの開催（小規模事業者持続化補助金対応）

- ・日時：11月16日（水）14:00～16:30
  - ・講師：㈱ネオクラシック 代表取締役（中小企業診断士） 柴田 幸紀 氏
  - ・受講者：12者
- セミナー終了後、栃木県よろず支援拠点の支援を受けて個別指導を12月から1月にかけて計4回実施した。同時に職員がフォローアップを行い10者が事業計画書を作成した。

##### ④ しもつけ創業塾の開催

- ・日時：11月4日（金）・11日（金）・18日（金）・25日（金）・12月2日（金）  
12月9日（金）・16日（金） 計7日間 何れも 18:30～21:30
  - ・講師：㈱ネオクラシック 代表取締役（中小企業診断士） 柴田 幸紀 氏  
て印ビジネスラボ 代表（中小企業診断士） 杉本 佳寿子 氏
  - ・受講者：12者（うち、これからの創業を考えている者7者）
- 創業塾の際に、経営（創業）計画書の骨子となるビジネスモデルキャンパスを作成した。受講後には、すでに創業している2者が小規模事業者持続化補助金の申請と絡めて事業計画書を作成した。創業を目指している7者についてはフォローアップ中である。

##### ⑤ その他

- ・前年度、事業計画書を作成した事業者に対して実行支援を実施した際に、5者が事業計画書の見直しを行った。
- ・マル経融資斡旋の際に、事業計画書作成支援を行い、2者が事業計画書を作成した。

#### (2) 今年度の目標及び実績等

項目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	目標	実績	達成率
① 計画策定支援に係る巡回訪問延べ回数	160 回	163 回	101.9%
② 計画策定支援に係る講習会・セミナーの受講者数	36 者	37 者	102.8%
③ 事業計画策定事業者数（見直しを行った者も含む）☆	40 者	40 者	100.0%
④ 創業支援者数	4 者	9 者	225.0%

(3) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかと いうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

\*コメント

- ・ 専門家を効果的に活用することで、事業計画策定に取り組む事業者数を確保できた。
- ・ セミナー受講者のうち8者が、事業計画策定に繋げることができなかった。職員のフォローアップ体制の強化が必要。
- ・ 補助金申請等を絡めて事業計画書作成に繋がられた。
- ・ 事前に経営分析ができていない事業者は、事業計画書作成に至らない傾向があるため、分析の段階での支援体制の強化が必要。

【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に合っているか？必要か？  
有効性：成果は上がっているか？効果は？

妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？  
効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

(4) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかと いうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性（5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる）

	拡 充	<input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実	<input type="checkbox"/> 新たな展開	<input type="checkbox"/> その他
○	一部改善	<input type="checkbox"/> 内容見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 実施方法見直し	<input type="checkbox"/> その他
	縮 小	<input type="checkbox"/> 事業の縮小	<input type="checkbox"/> 時限設定必要	<input type="checkbox"/> その他
	廃止休止	<input type="checkbox"/> 妥当性なし	<input type="checkbox"/> 当会以外で実施すべき	<input type="checkbox"/> その他
	現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他

\*検討委員コメント

・ セミナー等を開催し、効果的に事業計画策定支援を実施しているが、セミナー等に参加しなくてもやる気のある事業者が潜在していると思われるので、支援対象事業者の掘り起こしが重要である。

(5) P D C A 評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判 定
A

- A：目標を達成することができた。（100%以上）  
 B：目標を概ね達成することができた。（80%～99%）  
 C：目標を半分程度しか達成することができなかった。（30%～79%）  
 D：目標を達成することができなかった。（30%未満）

(6) 次年度目標

項 目	29年度	今年度比
① 計画策定支援に係る巡回訪問延べ回数	176 回	+ 16 回
② 計画策定支援に係る講習会・セミナーの受講者数	40 者	+ 4 回
③ 事業計画策定事業者数（見直しを行った者も含む）☆	44 者	+ 4 回
④ 創業支援者数	4 者	±0 回

(7) 次年度目標の達成に向けた見直し（改善等）

- ・ 事業計画策定セミナーを開催し、支援事業者の資質向上を図り、実行性のある事業計画策定支援を行うと共に、セミナー受講者に対して、受講後の職員によるフォローアップ体制を強化し、着実な実施へと繋げる。
- ・ セミナーには職員も参加し、支援能力の向上を図ると共に、セミナー受講をされない事業者への支援に活用していく。

#### 4. 事業計画策定後の実施支援に関すること【指針②】

経営発達支援事業の目標達成に向け、上記3. 事業計画策定支援を行った事業者に対し、「事業計画に従って行われる事業が、確実に実施され、課題が解決されること」を目的に、「伴走型」の指導・助言を関係機関とも連携して行う。  
小規模事業者に寄り添い、継続して支援することで、「計画の（修正・見直し対応も含めて）実効性を高める」効果を図る。

##### (1) 実施した事業内容

- ① 事業計画が着実に実施するための指導・助言に係る専門家派遣
  - ・実施時期：10月～12月
  - ・専門家：中小企業診断士 笹川 嘉洋 氏
  - ・派遣先：重点支援対象事業者 14者  
専門家より事業計画の着実な実行に向けた指導を受けた。その際に需要開拓支援として作成する「グルメガイドマップ」への掲載記事の助言を受け、訴求効果の高い掲載記事作成に繋がった。
- ② 事業計画策支援者へのフォローアップ
  - ・事業計画書を作成した事業者に対して、計画が着実に実行されることを目的に巡回訪問を行い、計画の進捗状況を確認すると共に、国、栃木県、下野市、栃木県産業振興センター等の支援機関が行う支援策の周知・提案を行った。

##### (2) 今年度の目標及び実績等

項目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	目標	実績	達成率
① 実施支援に係る巡回訪問延べ回数	160回	164回	102.5%
② 実施支援に係る支援策の周知・提案件数	160回	164回	102.5%
③ 実施支援事業者数	40者	40者	100.0%

##### (3) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

##### \*コメント

- ・事業計画の着実な実施に向けた巡回訪問を行ったが、実行されない事業者が多く見受けられた。今後は、資金計画・アクションプランを含めた計画の見直しが必要と思われる。
- ・支援策の提案を行ったことにより、小規模事業者持続化補助金の申請を行う事業者数が増加した。

##### 【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に合っているか？必要か？  
有効性：成果は上がっているか？効果は？

妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？  
効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

##### (4) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性（5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる）	
<input type="checkbox"/>	拡 充 <input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実 <input type="checkbox"/> 新たな展開 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	一部改善 <input type="checkbox"/> 内容見直し <input checked="" type="checkbox"/> 実施方法見直し <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	縮 小 <input type="checkbox"/> 事業の縮小 <input type="checkbox"/> 時限設定必要 <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	廃止休止 <input type="checkbox"/> 妥当性なし <input type="checkbox"/> 当会以外で実施すべき <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	現状維持 <input type="checkbox"/> 適切な事業執行 <input type="checkbox"/> 大幅な変更不要 <input type="checkbox"/> その他

##### \*検討委員コメント

- ・引き続き事業計画の着実な実施に向けた支援体制を強化し、必要に応じて計画の見直し等も行うこと。



(5) P D C A 評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じて A から D を判定する。

判 定
A

- A : 目標を達成することができた。(100%以上)  
 B : 目標を概ね達成することができた。(80%~99%)  
 C : 目標を半分程度しか達成することができなかった。(30%~79%)  
 D : 目標を達成することができなかった。(30%未満)

(6) 次年度目標

項 目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	29年度	今年度比
① 実施支援に係る巡回訪問延べ回数	176 回	+ 16 回
② 実施支援に係る支援策の周知・提案件数	176 者	+ 16 回
③ 実施支援事業者数	44 者	+ 4 回

(7) 次年度目標の達成に向けた見直し(改善等)

・今年度、事業計画書を作成した事業者に対して、着実な実施に向けて伴走型の支援を行う。また、重点支援対象事業者 14 者に対しては、「計画見直しを含めた実行支援」に係る専門家派遣を実施する。

5. 需要動向調査に関すること【指針③】

経営発達支援事業の目標達成に向け、上記 2. 経営状況の分析を行った事業者に対して、経営分析で把握した事業者の販売する商品・サービス(技術)の需要動向に関する情報について、「将来性判断に有効かつ最新の情報として提供すること」を目的に調査・収集、整理及び分析し、上記 3. 事業計画策定支援時、又は、上記 4. 事業計画策定後の実施支援に係る巡回訪問時や窓口相談時に提供する。

小規模事業者に寄り添い、情報を噛み砕いて分かりやすく提供することで、「的確な経営判断を行う」効果を図る。

(1) 実施した事業内容

① 当商工会以外の機関が実施する調査からの情報収集

・管内事業者に対し、新たな需要開拓の方向性の決定や、新商品・新サービスの開発に活用してもらうことを目的に、7月に外部専門家に依頼してインターネット等の外部機関が実施する調査から日本標準産業分類の小分類 39 業種の需要動向について情報収集、整理、分析を行った。調査結果については、事業計画策定支援者(セミナー受講及び専門家派遣事業者を含む)等に提供した。

[外部専門家: 中小企業診断士 笹川 嘉洋 氏]

② 「飲食業向けマーケティングリサーチ」の実施

・外部専門家を活用し、高度化・多様化する消費者ニーズ等を把握し事業計画を策定する際の情報として提供することを目的に以下のとおりアンケート調査を実施した。

【地域内住民向け】

(調査日) 7月3日(日)  
(調査場所) スーパーかましん自治医大店  
(採取数) 120サンプル(有効回答98サンプル)

【地域外からの来訪者向け】

(調査日) 7月9日(土)  
(調査場所) 道の駅しもつけ  
(採取数) 120サンプル(有効回答116サンプル)

調査票には、「嗜好」「店舗検索方法」「利用頻度」「利用を決定するポイント」を盛り込み、分析を行った。調査結果については、事業計画策定支援者(セミナー受講及び専門家派遣事業者を含む)等に提供した。

[外部専門家: 中小企業診断士 笹川 嘉洋 氏]

(2) 今年度の目標及び実績等

項 目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	目標	実績	達成率
① 調査分析実施回数 ☆	20 回	40 回	200.0%
② 実施支援に係る情報提供回数	40 回	40 回	100.0%

(3) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

\*コメント

- ・事業計画策定セミナー及び重点支援対象事業者への専門家派遣の前に実施できたので、事業者を支援する際に調査結果を活用することができた。
- ・専門家に依頼することで、より専門的な分析ができたほか、効率化を図り商工会のマンパワー不足を解消できた。
- ・調査結果が漠然としているため、調査項目及び委託先の検討が必要と思われる。また、サンプル不足と思われる。

【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に合っているか？必要か？  
有効性：成果は上がっているか？効果は？

妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？  
効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

(4) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性（5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる）

	拡 充	<input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実	<input type="checkbox"/> 新たな展開	<input type="checkbox"/> その他
○	一部改善	<input type="checkbox"/> 内容見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 実施方法見直し	<input type="checkbox"/> その他
	縮 小	<input type="checkbox"/> 事業の縮小	<input type="checkbox"/> 時限設定必要	<input type="checkbox"/> その他
	廃止休止	<input type="checkbox"/> 妥当性なし	<input type="checkbox"/> 当会以外で実施すべき	<input type="checkbox"/> その他
	現状維持	<input type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他

\*検討委員コメント

- ・アンケート調査に関して、調査結果が誘導されることのないように、調査目的を定めて調査項目を検討していくこと。

(5) PDCA評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判 定
A

- A：目標を達成することができた。（100%以上）  
B：目標を概ね達成することができた。（80%～99%）  
C：目標を半分程度しか達成することができなかった。（30%～79%）  
D：目標を達成することができなかった。（30%未満）

(6) 次年度目標

項 目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	29年度	今年度比
① 調査分析実施回数 ☆	47 回	+ 27 回
② 実施支援に係る情報提供回数	44 者	+ 4 回

(7) 次年度目標の達成に向けた見直し（改善等）

- ・「飲食業向けマーケティングリサーチ」については、調査内容等を再検討し、飲食業関連事業者にとって有益な情報となるものとする。
- ・業種別の需要動向調査については、県連のシステムを活用する。

## 6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関する事【指針④】

経営発達支援事業の目標達成に向け、上記3. 事業計画策定支援を行った事業者（ピンポイントで販路開拓を目指す事業者を含む）に対し、上記5. 需要動向調査で得られた情報に基づき、上記4. 事業計画策定後の実施支援の一環として「課題の解決」を目的に実施する。

小規模事業者が苦手とし、手が回らない広報活動や、展示会等の開催等、ITの活用等、需要の開拓に寄与する事業を行う。

小規模事業者に寄り添い、売上げに直結する“具体的な支援”を行うことで、「計画の実効性を高める」効果を図る。

### (1) 実施した事業内容

#### ① 「グルメガイドマップ」の作成・配布

・専門家派遣で、経営状況分析・事業計画策定・計画実行支援まで実施した重点支援対象事業者への需要開拓支援として「グルメガイドマップ」を作成した。

(作成日) 1月30日

(作成部数) 5,000部

(掲載事業者数) 14事業者

(配布先) 道の駅しもつけ、自治医大、オアシスポッポ館、下野市役所等の集客施設

#### ② リフォーム相談会の実施

・受託団体である「国分寺リフォーム受注会」が「住まいの何でも無料相談会」を7月と12月に2回開催した。

#### ③ 「事業者PRチラシ」の作成・配布

・専門家派遣で、経営状況分析・事業計画策定・計画実行支援まで実施した重点支援対象事業者及び「経営状況分析セミナー」「事業計画策定セミナー」に参加し、「ワクワク系の店づくり事業」の手法を用いた事業計画書を作成した事業者の需要開拓支援として「事業者PRチラシ」を作成した。

(作成日) 2月19日

(作成部数) 25,000部

(掲載事業者数) 21事業者

(配布先) 2月19日に23,000部を下野市全域に新聞折り込み

残り2,000部は、道の駅しもつけ、オアシスポッポ館等の集客施設に設置

#### ④ 「プレミアム付商品券発行事業」の実施

・下野市、当商工会、石橋商工会の共催で、地域住民の消費喚起を目的に実施した。

(実施時期) 10月～2月

(販売日) 10月30日(日)

(加盟事業者数) 当商工会地区：131事業者

### (2) 今年度の目標及び実績等

項目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	目標	実績	達成率
① 「グルメ・スイーツフェア」出店事業者数	10 者	0 者	0.0%
② 「グルメガイドマップ」掲載事業者数	30 者	14 者	46.7%
③ 「スローライフ推進事業」ガイドブック掲載事業者数	4 者	5 者	125.0%
④ 「リフォーム相談会」顧客情報取得件数	10 件	17 件	170.0%
⑤ 「地域密着リフォーム事業」新聞広告掲載事業者数	10 者	10 者	100.0%
⑥ 「ワクワク系の店づくり事業」実践事業者数	8 者	21 者	262.5%
⑦ 「しもつけポイント倶楽部」加盟登録事業者数	50 者	43 者	86.0%
⑧ 「プレミアム付商品券事業」登録事業者数	125 者	131 者	104.8%

(3) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

\*コメント

・「グルメガイドマップ」については、専門家を派遣し事業計画書を作成した14者を掲載した。次年度以降も同様な支援を行い掲載事業者数を増やして行く。また、内容についてはクーポン機能の追加やWEBとの連携を図る。  
 ・「ワクワク系の店づくり事業」を実践した専門家派遣やセミナーに参加し事業計画書を作成した21者について「事業者PRチラシ」を作成した。

【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に合っているか？必要か？  
 妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？  
 有効性：成果は上がっているか？効果は？  
 効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

(4) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性（5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる）	
	拡充 <input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実 <input type="checkbox"/> 新たな展開 <input type="checkbox"/> その他
○	一部改善 <input checked="" type="checkbox"/> 内容見直し <input type="checkbox"/> 実施方法見直し <input type="checkbox"/> その他
	縮小 <input type="checkbox"/> 事業の縮小 <input type="checkbox"/> 時限設定必要 <input type="checkbox"/> その他
	廃止休止 <input type="checkbox"/> 妥当性なし <input type="checkbox"/> 当会以外で実施すべき <input type="checkbox"/> その他
	現状維持 <input type="checkbox"/> 適切な事業執行 <input type="checkbox"/> 大幅な変更不要 <input type="checkbox"/> その他

\*検討委員コメント

・「グルメ・スイーツフェア」を実施しないのであれば、「グルメガイドマップ」の掲載記事の充実及び機能強化に努めること。

(5) P D C A 評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判定
B

- A：目標を達成することができた。（100%以上）  
 B：目標を概ね達成することができた。（80%～99%）  
 C：目標を半分程度しか達成することができなかった。（30%～79%）  
 D：目標を達成することができなかった。（30%未満）

(6) 次年度目標

項目（☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目）	29年度	今年度比
① 「グルメ・スイーツフェア」出店事業者数	16 者	6 者
② 「グルメガイドマップ」掲載事業者数	45 者	15 者
③ 「スローライフ推進事業」ガイドブック掲載事業者数	4 者	±0 者
④ 「リフォーム相談会」顧客情報取得件数	16 件	6 件
⑤ 「地域密着リフォーム事業」新聞広告掲載事業者数	10 者	±0 者
⑥ 「ワクワク系の店づくり事業」実践事業者数	12 者	4 者
⑦ 「しもつけポイント倶楽部」加盟登録事業者数	54 者	4 者
⑧ 「プレミアム付商品券事業」登録事業者数	130 者	5 者

(7) 次年度目標の達成に向けた見直し（改善等）

- ・「地域情報ポータルサイト」を作成し、掲載事業者の需要開拓支援を行う。
- ・「グルメガイドマップ」について、クーポン機能を付加し、その回収で明確な成果を掴む。また、QRコードを付けて「地域情報ポータルサイト」との連携を図り、需要開拓支援を行う。
- ・「事業者PR冊子」についても「地域情報ポータルサイト」との連携を図る。

## 7. 地域経済の活性化に資する取組み

商工会が“地域総合経済団体”として行う、地域経済の活性化に資する取組（地域振興事業）は、経営改善普及事業と一応の区別はできるものの、相互に有機的な関連をもっている。

また、地域経済の活性化は、当地域のブランド化やにぎわいの創出といった地域に密着して事業を行う小規模事業者の振興に直結するものであるため、「面的支援」として取り組んでいく。

これまでは、当商工会独自の方針で地域経済の活性化を推進してきたが、今後は、下野市、観光協会、JA、金融機関、大手企業等との連携により、「下野市地域経済活性化委員会（仮称）」を開催し、今後の地域経済活性化の方向性等を検討すると共に小規模事業者が事業を持続的発展させるための良好な環境を整備する。

### (1) 実施した事業内容

#### ① 「第5回下野市産業祭」の開催

（実施主体）下野市、当商工会、石橋商工会

（実施日時）10月23日（日）10：00～14：00

（場 所）下野市南河内球場

（実施内容）商工業者、農産物生産者、団体が出展し、工業製品・加工技術の展示、商品・農産物の販売を行う

（目 的）下野市全体の賑わい創出、消費者・生産者・商工業者相互の交流による市内産業の認知度向上

#### ② 「第37回天平の花まつり」への協力

（実施主体）下野市観光協会

（実施日）3月20日（日）～5月5日（木）

（場 所）天平の丘公園

（目 的）下野市の観光資源である天平の丘公園の淡墨桜・八重桜が見頃となる時期に、県内外からの観光誘客、参加出店する小売・飲食業者の売上効果はもとより、商店街などへの観光客の回遊効果を図り賑わいを創出する

（協力内容）出店する小売・飲食業者の取り纏め

### (2) 今年度の目標及び実績等

項 目	（☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目）	目標	実績	達成率
① 下野市産業祭	（出店者数）	22 者	14 者	63.6%
② 下野市産業祭	（来場者数）	12000 者	7000 者	58.3%
③ 天平の花まつり	（出店者数）	22 者	18 者	81.8%
④ 天平の花まつり	（来場者数）	205000 者	196000 者	95.6%
⑤ 下野ブランド認定件数		35 件	32 件	91.4%
⑥ 空き店舗利用者数		4 者	4 者	100.0%

### (3) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

#### \*コメント

・地域に密着して事業を行う小規模事業者にとって、地域の活性化は必要不可欠と認識しているが、今年度は小規模事業者支援に重点を置いて事業推進したため、地域経済活性化に資する取組ができなかった。

・地域内の事業者が繁栄すれば自ずと地域も元気になるため、引き続き事業者支援に注力して行くが、今後は地域経済活性化検討委員会を開催し、方向性を検討する。

#### 【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に合っているか？必要か？

妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？

有効性：成果は上がっているか？効果は？

効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

(4) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	いどちらかある	概ねある	大いにある	今後の方向性（5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる）	
必要性							拡 充 <input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実 <input type="checkbox"/> 新たな展開 <input type="checkbox"/> その他
妥当性							○ 一部改善 <input checked="" type="checkbox"/> 内容見直し <input type="checkbox"/> 実施方法見直し <input type="checkbox"/> その他
有効性							縮 小 <input type="checkbox"/> 事業の縮小 <input type="checkbox"/> 時限設定必要 <input type="checkbox"/> その他
効率性							廃止休止 <input type="checkbox"/> 妥当性なし <input type="checkbox"/> 当会以外で実施すべき <input type="checkbox"/> その他
						現状維持 <input type="checkbox"/> 適切な事業執行 <input type="checkbox"/> 大幅な変更不要 <input type="checkbox"/> その他	

\*検討委員コメント

- ・下野市の地域ブランド認定支援及び空き店舗対策支援を推進すること。

(5) PDCA評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判 定
B

- A : 目標を達成することができた。(100%以上)  
 B : 目標を概ね達成することができた。(80%~99%)  
 C : 目標を半分程度しか達成することができなかった。(30%~79%)  
 D : 目標を達成することができなかった。(30%未満)

(6) 次年度目標

項 目	(☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	29年度	今年度比
① 下野市産業祭	(出店者数)	25 者	3 者
② 下野市産業祭	(来場者数)	13000 者	1000 者
③ 天平の花まつり	(出店者数)	25 者	3 者
④ 天平の花まつり	(来場者数)	210000 者	5000 者
⑤ 下野ブランド認定件数		40 件	5 件
⑥ 空き店舗利用者数		6 者	2 者

(7) 次年度目標の達成に向けた見直し（改善等）

- ・「地域情報ポータルサイト」を活用し、地域活性化を図る。
- ・「地域経済活性化検討委員会」を開催し、今後の方向性を検討する。

## 8. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

経営発達支援事業の目標達成に向け、上記Ⅰ. 経営発達支援事業の内容で掲げる6つの事業（＝経営発達支援事業）が「効果的かつ円滑に実施されること」を目的に取り組む。

事業を推進する職員が、他商工会の職員や支援機関と、支援事例や支援ノウハウ、事業者の現状、課題等について情報交換を行う。

また、役員は、他商工会の役員と、支援体制や商工会の現状と課題等について情報交換を行う。

### (1) 実施した内容

- ① 職員協議会第5支部に所属する8商工会の職員同士の情報交換
- ② 第5ブロック商工連絡会議にての情報交換
- ③ 県連が開催する各種セミナーでの情報交換
- ④ マル経協議会での情報交換
- ⑤ 地域内金融機関との情報交換

### (2) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

#### \*コメント

・県連が主催するセミナー等で、経営発達支援事業の支援内容の情報交換を行った。  
 ・地域内金融機関との情報交換を行い、地域の経済状況等の情報交換を行った。

#### 【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に適合しているか？必要か？

妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？

有効性：成果は上がっているか？効果は？

効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

### (3) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性（5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる）

<input type="checkbox"/>	拡 充	<input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実	<input type="checkbox"/> 新たな展開	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	一部改善	<input type="checkbox"/> 内容見直し	<input type="checkbox"/> 実施方法見直し	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	縮 小	<input type="checkbox"/> 事業の縮小	<input type="checkbox"/> 時限設定必要	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	廃止休止	<input type="checkbox"/> 妥当性なし	<input type="checkbox"/> 当会以外で実施すべき	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他

#### \*検討委員コメント

・引き続き、各支援機関との連携を図り、支援ノウハウ等の情報交換を行うこと。

### (4) PDCA評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判 定

A

A：目標を達成することができた。（100%以上）

B：目標を概ね達成することができた。（80%～99%）

C：目標を半分程度しか達成することができなかった。（30%～79%）

D：目標を達成することができなかった。（30%未満）

### (5) 次年度への見直し（改善等）

・引き続き、各支援機関との連携を図り、支援ノウハウ等の情報交換を行う。

## 9. 経営指導員等の資質向上等に関すること

経営発達支援事業の目標達成に向け、上記Ⅰ. 経営発達支援事業の内容で掲げる6つの事業（＝経営発達支援事業）が「効果的かつ円滑に実施されること」を目的に取り組む。事業を推進する職員の研修派遣、OJT、勉強会開催により資質向上を図る。

### (1) 実施した内容

- ① 県連が開催する職種別セミナーへの参加
- ② 中小企業大学校への職員派遣
- ③ 経営指導員Web研修の受講
- ④ セルフアッセサーセミナーへの参加
- ⑤ 内部勉強会の開催
- ⑥ OJTの実施（先輩職員や専門家に同行し支援を行う）

### (2) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかと いうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

#### \*コメント

- ・各支援機関が実施する研修会に参加し、支援能力の向上を図れた。
- ・内部勉強会に、外部講師として中小企業診断士を招聘し、毎回テーマを決めて3回、スキルアップ勉強会を開催し、職員の支援能力の向上を図れた。
- ・専門家派遣の際に、職員1名が随行し支援能力の向上を図れた。

#### 【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に適切しているか？必要か？  
有効性：成果は上がっているか？効果は？

妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？  
効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

### (3) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかと いうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性（5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる）

<input type="checkbox"/>	拡 充	<input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実	<input type="checkbox"/> 新たな展開	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	一部改善	<input type="checkbox"/> 内容見直し	<input type="checkbox"/> 実施方法見直し	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	縮 小	<input type="checkbox"/> 事業の縮小	<input type="checkbox"/> 時限設定必要	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/>	廃止休止	<input type="checkbox"/> 妥当性なし	<input type="checkbox"/> 当会以外で実施すべき	<input type="checkbox"/> その他
<input type="radio"/>	現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他

#### \*検討委員コメント

- ・職員の資質向上を図るため、外部機関が実施するセミナー等へ積極的に参加すること。

### (4) PDCA評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判 定

A

- A：目標を達成することができた。（100%以上）  
 B：目標を概ね達成することができた。（80%～99%）  
 C：目標を半分程度しか達成することができなかった。（30%～79%）  
 D：目標を達成することができなかった。（30%未満）

### (5) 次年度への見直し（改善等）

- ・当会で開催するセミナーに職員も参加し、支援能力の向上を図る。
- ・経営指導員と経営支援員がペアとなり事業者の支援にあたり、支援能力の平準化を図る。
- ・調査業務について、専門家から分析プロセス等の指導を受け、臨機に情報を収集し分析できる体制を整える。



## 10. 支援ノウハウ等を組織内で共有する体制

経営発達支援事業の目標達成に向け、上記I. 経営発達支援事業の内容で掲げる6つの事業（＝経営発達支援事業）が「効果的かつ円滑に実施されること」を目的に取り組み、当商工会組織としての支援ノウハウの共有及び蓄積を行う。

### (1) 実施した内容

#### ① 支援ノウハウの組織的な蓄積

### (2) 今年度実績に対する内部評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

#### \*コメント

・定期的に内部勉強会を開催し、支援ノウハウの共有及び組織としての蓄積を図れた。  
・支援事業者の事業計画書等をサーバーで共有し、全職員が閲覧できるようになっている。

#### 【5段階評価の主なポイント】

必要性：目的に合っているか？必要か？

妥当性：事業の実施方法は適切か？内容は妥当か？

有効性：成果は上がっているか？効果は？

効率性：事業は効率的か？ムリ・ムダ・ムラはないか？

### (3) 今年度実績に対する検討委員会の評価

5段階評価	ない	あまりない	どちらかとうとある	概ねある	大いにある
必要性					
妥当性					
有効性					
効率性					

今後の方向性（5項目から1つを選択し○を、理由に☑を入れる）

拡充	<input type="checkbox"/> 事業の拡大・充実	<input type="checkbox"/> 新たな展開	<input type="checkbox"/> その他
一部改善	<input type="checkbox"/> 内容見直し	<input type="checkbox"/> 実施方法見直し	<input type="checkbox"/> その他
縮小	<input type="checkbox"/> 事業の縮小	<input type="checkbox"/> 時限設定必要	<input type="checkbox"/> その他
廃止休止	<input type="checkbox"/> 妥当性なし	<input type="checkbox"/> 当会以外で実施すべき	<input type="checkbox"/> その他
○現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> 適切な事業執行	<input type="checkbox"/> 大幅な変更不要	<input type="checkbox"/> その他

#### \*検討委員コメント

・支援事業者の支援内容を、サーバーで一括管理し、職員全員が共有できていることは非常に良いことなので、更なる支援ノウハウの蓄積を求める。

### (4) PDCA評価

実績・評価等結果を踏まえつつ、目標の達成度合いの割合に応じてAからDを判定する。

判定

A

A：目標を達成することができた。（100%以上）

B：目標を概ね達成することができた。（80%～99%）

C：目標を半分程度しか達成することができなかった。（30%～79%）

D：目標を達成することができなかった。（30%未満）

### (5) 次年度への見直し（改善等）

・引き続き、内部勉強会を開催すると共に、支援内容をサーバーにて一括管理し、支援ノウハウの蓄積を図る。

## 1 1. 施策利用状況等（その他取組み状況）

### (1) 今年度の実績

項 目 (☆は、中小企業庁の調査指標に合致する項目)	実績	前年度
①持続化補助金申請件数	27 件	21 件
（うち、採択件数）	12 件	8 件
②経営改善資金（マル経）利用件数	8 件	17 件
③経営発達支援資金利用件数	0 件	0 件
④小規模事業者に対する巡回訪問件数	2506 件	2643 件
⑤小規模事業者数	855 者	855 者
（うち、会員小規模事業者数）	537 者	550 者

### (2) 今年度の実績に対する内部の評価

#### \*コメント

・経営発達支援計画に基づき、小規模事業者支援を行い、支援事業者が事業計画書を作成したことにより、H28補正の小規模事業者持続化補助金の申請者が15者、採択者が7者となった。

### (3) 今年度の実績に対する検討委員会の評価（意見等）

#### \*検討委員コメント

・経営発達支援資金を積極的に活用すること。

### (4) 次年度に向けた見直し（改善等）

・マル経融資の推進を図るが、大規模な設備投資が必要な事業者に対しては、経営発達支援資金を有効に活用していく。